



学校だより

10月

「わかる つながる 高め合う」のびていこう はやぶちっ子

コンポジション（構想）とインプロヴィゼーション（即興）

校長 鈴木 智彦

サンバのリズムが体育館いっぱいに鳴り響きました。
ハンドソニックが刻む躍動的なビートに太鼓の響きが重なり、
その上を軽快なメロディが駆け抜けていきます。
先日の音楽集会で披露された5年生の「威風堂々」です。

一般に「威風堂々」と聞くと、堂々とした重厚な演奏を思い浮かべます。前半の演奏からは、一つ一つの音を丁寧に積み重ねながら楽曲の世界を表現しようとするコンポジション（構想）と、子どもたちの真剣さが伝わってきました。



サンバオオカミくん

しかし、私が特に心を動かされたのは後半の姿でした。

そこには、決められた演奏を再現するだけではない子どもたちがいました。体全体でリズムを感じながら、それぞれが自分の思いを音にのせて表現していたのです。楽譜やリズム、仲間との約束事があります。しかし、今回子どもたちが目指していたのは、決まりを守ることだけではありませんでした。

音楽の先生から繰り返し伝えられていたのは、「思いっきり楽しんで、自分の殻をやぶろう」ということでした。約束事を土台としながらも、失敗を恐れず、自分らしく音楽を楽しむこと。そして仲間と心を合わせながら、一歩踏み出して新しい表現に挑戦すること。子どもたちは、その言葉どおりに演奏していました。音楽を楽しみながら自分の可能性を広げ、自分でも気付かなかった力を引き出していたように思います。

私はその姿に、これからの学びに必要な力を感じました。知識や技能を身に付けることは大切です。しかし、それを身に付けるだけではなく、それらを活用しながら自ら考え、表現し、新たな価値を生み出していくことが求められています。音楽の世界で言えば、それはインプロヴィゼーション（即興）のような営みです。共通のリズムや仲間とのつながりがあるからこそ、一人ひとりが安心して殻をやぶり、自分らしい表現に挑戦することができるのです。

そして何より素晴らしかったのは、自分を表現しながらも、みんなで一体感を味わっていたことです。一人ひとりが自分らしく輝き、その個性が集まることで大きな力となる。5年生の演奏は、そのことを改めて教えてくれました。子どもたちの奏でる音の中に、本校が目指す「はやぶちっ子」の姿を見ることができた、すばらしい時間でした。

【演奏音源】 <https://www.youtube.com/watch?v=HH6Lz8LyIGQ>

※個人情報保護の観点から、音声のみの公開としています。5年生の心のこもった演奏をお楽しみください。